



**拠点名称： 西アジア文明研究センターの構築**

Research Center for West Asian Civilization

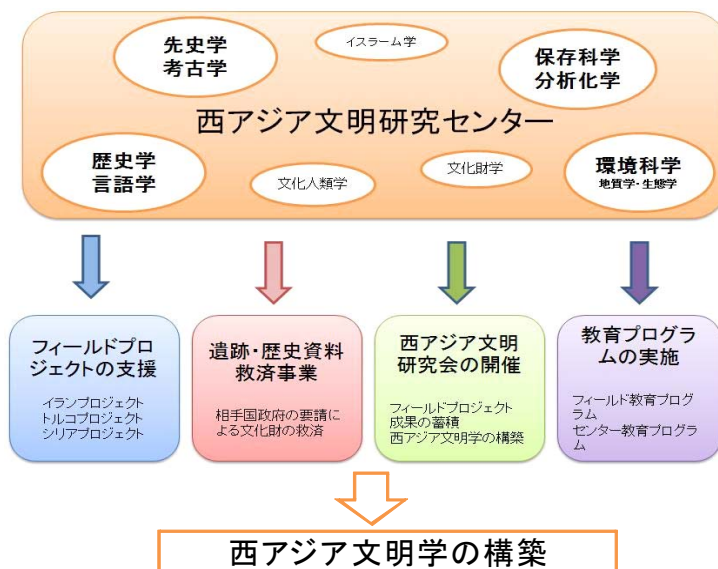
拠点代表者：人文社会科学研究科・教授・常木 晃

**研究拠点形成の目的**

本プレ戦略イニシアティブでは、現代社会において世界の不安定要素とされ、不可解、危険などというキーワードで語られることの多い西アジア世界を、イスラーム以前からの長大な歴史という視点から見直して見ることを出発点としました。西アジア世界の特質とされるもの、例えば血縁集団としての強い紐帯や唯一神への深い信仰といったものは、イスラーム社会成立のはるか以前にこの地で誕生しはぐくまれてきた長い前史があります。このイスラーム以前から長く続く西アジア的な様々な伝統を、ここでは西アジア文明と呼んでおきます。そしてこの西アジア文明に寄り添ってみますと、この文明が実に様々なことを達成し、発展させて、現代の私たち自身にまで繋げていることが分かってきます。その文明は、現生人類が出アフリカし拡散していった出発点となり、コムギに基づいた史上最初の食糧生産社会を作り上げ、その勢いをかって都市という人工空間を現出させ、その中で冶金術や文字といった複雑な技術を発明し、国家や一神教という新たなシステムや精神のよりどころを創出しました。つまり、西アジア文明の遺産は現在でも世界の様々な地域に大きな恩恵と影響をもたらし続け、世界中の基層文化の一部となっているのです。そうした意味で、西アジア文明を研究することは、イスラーム社会の理解のみならず、西欧社会、そして現代世界の根っこを理解するという行為であり、それは現代社会の相互理解を深化させていくための極めて重要かつ必須のアイテムとなると、私たちは考えています。

**研究拠点形成計画の概要**

西アジア文明の多角的かつ学際的な研究を志向し、西アジア地域に関わる本学の様々な人材を組織し、大学院生などの若手研究者を巻き込みながら、フィールドプロジェクトへの支援、遺跡・歴史資料救済事業、西アジア文明研究会の開催、教育プログラムなどのオペレーションを実施していきます。



本学にはすでに西アジア各地において長いフィールドワークの歴史があります。これを発展させ他の3つのオペレーションと組み合わせます。各オペレーションの主体となるのはセンター準備室で、そこに先史学、考古学、歴史学、言語学、文化人類学、文化財科学、環境科学、保存科学、分析化学などの研究者を集積し、人文科学と自然科学を統合した新たな西アジア文明学の構築を目指していきます。